

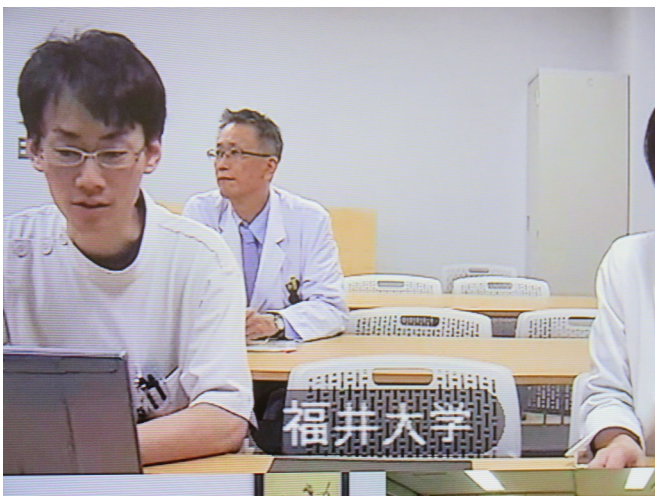
第44回デメンシアカンファレンスを開催

2018年11月21日

11月21日（水）に福井大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第44回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院的10施設が参加しました。

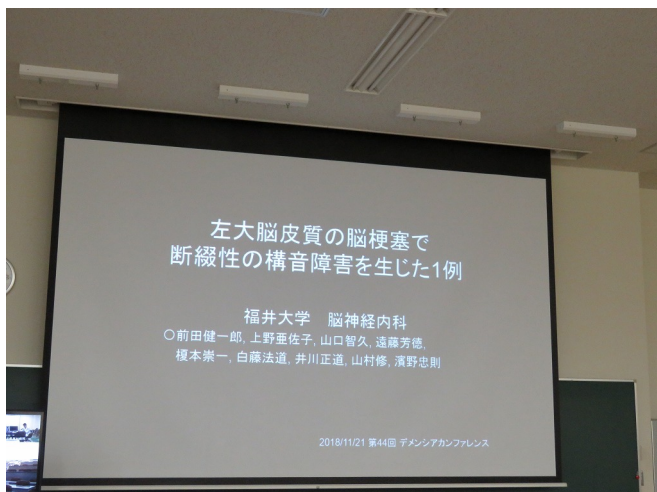
「左大脳皮質の脳梗塞で断続性の構音障害を生じた一例」のタイトルで、福井大学からの症例報告が進められました。



症例発表の様子



各会場の様子



症例のスライド



福井大会場の様子

第44回デメンシアカンファレンス 報告要旨 『左大脳皮質の脳梗塞で断綴性の構音障害を生じた一例』

発表者：前田健一郎（福井大学 脳神経内科）

司会：上野亜佐子（同上）

【要旨】

症例は78歳男性。既往に高血圧、脂質異常症。現病歴ではX日の14時に起床すると「あー」「うー」としか話せなくなり来院。一般身体所見では血圧189/117 mmHg, 脈拍78回/分・整, 神経学的所見では高次脳機能は右利き, 運動性失語あり, 口頭指示・文章の理解は良好, 復唱は不能, 書字は可能。運動系では閉眼・口角挙上は右で弱く, 右カーテン徴候陽性, 舌の右偏倚あり, 上肢Barreが右で陽性であった。その他は特に異常を認めず。

経過ではX+3日, 麻痺は改善。断綴性構音障害が明瞭になり, 特に話しはじめて言葉が出てこない, 一部の発音が別の音に変換される（サシスセソ→サチツセト, ザジズゼゾ→ダヂヅデド, ラリルレロ→ルアリウレロ）, 変換障害が一定していないなどの症状を認めた。古典的失語の分類の中では, 自発言語の障害があったが, 超皮質性運動性に近いものと考えられた。標準失語症検査では低頻度語での一部換語困難, 語想起能力の軽度低下, 書称・書き取りにおける漢字の文字想起困難, 短文読解での類似絵との選択誤りを認めた。

検査では頭部MRIで左中心前回の中下部を中心とした脳梗塞を認め, 発語失行を生じたと考えられた。採血検査や経食道心エコーなどの検査で, 明らかな血管炎や塞栓原となるものを認めなかった。治療は塞栓源不明の脳塞栓症として, 抗血小板療法を行った。

考察, 発語失行は失構音, アナルトリーとも呼ばれる。特徴は音の連結不良, 断綴性言語, 構音の歪み(音韻置換), 探索行動, 努力性, これらの症状には変動性がみられること, 書字・言語理解は保たれることである。病巣は左中心前回の中下部およびその皮質下, 特に後壁側が発症に関与するとされる。神経基盤(仮説)としては, 構音器官を支配する運動領域の障害で皮質性の運動障害が生じることにより, 運動支配は両側性であるために, 不完全な麻痺となり, 構音の拙劣として表現されるとされている。

【質問・意見】

なし



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第44回 テメンシアカンファレンス

2018年11月21日(水) 18:30~20:00

「左大脳皮質の脳梗塞で 断綴性の構音障害を生じた一例」

担当: 福井大学 脳神経内科

対象: 参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生を含む)

会場: 認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
(○…参加者受け入れ可)

- ・金沢大学(医薬保健学域医学類G棟2階第4講義室)
- ・富山大学(附属病院2階カンファレンスルーム2)
- ・福井大学(附属病院2階カンサーボード室)
- ・金沢医科大学(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
- ・国立病院機構医王病院(臨床研究棟会議室)
- ・石川県立高松病院(医局会議室)
- ・国立病院機構北陸病院(特殊診療棟2階小会議室)
- ・谷野呉山病院(共通棟1階ミーティング室)
- ・魚津緑ヶ丘病院(5階会議室)
- ・福井県立すこやかシルバー病院(管理棟2階応接室)

申し込み不要

※出席される方は、受付で出席簿に
氏名等をご記入ください。

※教育コース履修者の方は、
本人保管用の受講票を受理の上、
検印を受けてください。

●お問い合わせ先: 北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL 076-265-2149
FAX 076-234-4208
E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL <http://ninpro.jp>